

平成27年9月27日

三重事業所のOB会の皆様に支えられて

三重地方幹事 渡邊佐智男

私が所属している車椅子レクダンス普及会亀山支部は、
高齢者や障がいのある人たちが健常者と同じように楽しめる、社会環境を実現するために活動しています。

最近、新聞に、その活動実績と今後の活動について、紹介されました。

4年前に、三重事業所のOB会の皆様に支援をいただきながら
亀山市で「バリアフリーの街をめざそう」をスローガンに掲げ、全国大会を開催させていただきました。参加者は、約800人（車椅子利用者は55人）、全国から、海外（韓国）から、亀山市に集っていただきました。3日目は、海外から参加の車椅子利用者16人も一緒に、地元の大学生80人の協力をいただき、伊勢神宮参拝が実現出来ました。記念すべき楽しい3日間の交流でした。セントレア空港まで見送り、再会の約束をしての感動の別れのシーンが記憶に残ります。

その後、「心のバリアフリーの街」をめざして、継続して活動を行っております。

その間に開催いたしました、大きなイベントは、亀山市文化会館全館を貸し切ったの、

1. 地元高校生と合同開催の「亀山市・心のバリアフリー都市宣言」。
2. 高齢者、障がい者と一緒に「世界一長いようかん作り」にトライし、見事に達成。
3. 「くまモン」も参加していただきながら、障害者に、司会・進行、受付、接待、出演の運営をしていただき、自立支援イベントを開催。古河電工三重事業所、労働組合、その他20社の企業様、福祉施設様に参加していただきました。

今後も各種のイベントを通じて、心のバリアフリー向上を目指し、三重事業所OB会の皆様のお力をいただきながら、活動して行きたいと考えております。

各々の実行委員長 渡邊佐智男

2015年(平成27年)9月27日(日曜日)

車椅子レクダンス普及会亀山支部 =亀山市



軽快な音楽にあわせ、始した車椅子レクダンスのひとと手をたぎ合っ 普及会亀山支部 渡邊佐 たり、前後に体を揺ら 智男支部長は、設立 し、くるくる回ったり。の理由を「亀山は山がち おなじみのフォークタン で、車いすで移動しにく したが、踊っているのはい土地。スロープやエレ 者の立場を理解し、手助 車いすに乗った障害者 ベーターを設置して施設 けをする「心のバリアフ ー」が求められている と、サポートする健常者 なむをバリアフリーにす るには大金が必要になっ と思っただ」と話す。車椅 子レクダンスを選んだの 二〇〇六年に活動を開

は、健常者も障害者も、一緒に頑張って音楽に合わせ体を動かすことを楽しめるからだ。

土地柄なのか、車いすに乗ることを恥ずかしくする人が多く、当初の活動は難航した。それでもめげずに、月に二回は必ず施設訪問や練習などのイベントを開催し続けた。回を重ねるごとに理解者はじわじわと増え、「車いすで外出する光景が、少しずつ当たり前になってきている」と渡邊支部長。二年には「車椅子レクダンス全国大会」で亀山を講義し、運営にも成功した。

一四年からは障害者への理解を深める、実行委員会形式のイベント「福祉のめいめんフェスタ」の運営にも参加するなど、活動の幅を広げている。

渡邊支部長は「イベントには必ず子どもたちも招いている。若い世代も巻き込み、継続的にやっていきたい」と意気込んでいる。(大山弘)

イベント開催 活動広がる

えねるぎっしゅ